

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2 次評価

所属 0005751010 生涯学習課施設管理係

事務事業 02483 公民館施設管理事業

所属長名 原田 敬章

担当者 荻須 知恵

電話番号 0566-76-1515

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4 生涯学習			
施策の方針	004	市民の主体的な学びを支える環境づくり			
事務事業	006	公民館施設管理事業			
事業期間	昭和56年度 ～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト	○	地方創生	
根拠法令等	安城市公民館の設置及び管理に関する条例				
備考					

【事業分析】

対象	公民館の利用者が
目的	快適に施設を利用できるようにすることを目的としています。
手段	施設の利用に関する受付事務及び施設の維持に係る改修、修繕、委託事務を実施します。
事務内容	施設の利用に関する受付事務、施設の維持管理に関する事務

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		399,526	375,147	489,131
事業費	事業費	338,101	311,832	422,471
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	43,253	40,426	83,918
	一般財源	294,848	271,406	338,553
	人件費計	61,425	63,315	66,660
	正規（人）	9.75	10.05	10.10
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	施設の利用受付	施設の利用受付	施設の利用受付
	施設の適正な維持管理を実施	施設の適正な維持管理を実施	施設の適正な維持管理を実施

事務事業評価シート（2 / 2）

2 頁
令和 3 年 8 月 20 日
13 時 00 分 03 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005751010 生涯学習施設管理係
事務事業 02483 公民館施設管理事業
【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
部屋利用率（利用部屋数÷利用可能部屋数）	%	47.00 42.56	47.00 37.96	47.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	3
		1 国・県・民間等がサービスを行っていない	
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
2	理由	ホールや会議室の貸館は他でも多く行っています。	1
		市民ニーズの有無	
		1 市民ニーズは充分にある	
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
3	理由	会議、研修、講座利用などニーズはあります。	2
		有効性	
		目標に対する進捗状況	
		1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	
		2 目標を下回る進捗状況である	
4	理由	コロナ禍の影響により目標を下回っています。	2
		効率性	
		事業の効率化・事業費の削減	
		1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
5	理由	コロナ禍において、実施方法等の検討を行っています。	1
		公平性	
		事業規模・サービス水準	
		1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
	理由	生涯学習施設としての施設利用促進に努めています。	

【1 次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント （4 0 0 文字）	施設の利用者が快適に施設を利用できるよう老朽化する施設の保全とともに今後も継続して施設整備を実施していきます。また、生涯学習施設として施設利用促進に向けて事務改善を行うために情報収集を行っていきます。

【2 次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント （4 0 0 文字）	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2 次評価

所属 0005751010 生涯学習課施設管理係

事務事業 02484 市民会館施設管理事業

所属長名 原田 敬章

担当者 浅井 隆之

電話番号 0566-76-1515

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4 生涯学習			
施策の方針	004	市民の主体的な学びを支える環境づくり			
事務事業	005	市民会館施設管理事業			
事業期間	昭和47年度 ～				
実施方法	全部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	安城市市民会館条例				
備考					

【事業分析】

対象	市民会館の利用者が
目的	快適に施設を利用できるようにすることを目的をしています。
手段	市民会館の管理運営を指定管理者へ委託し、施設の適正な維持管理を実施します。
事務内容	指定管理に関する事務、施設の維持管理に関する事務

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト		72,797	80,170	68,958
事業費	事業費	71,537	77,650	67,638
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	71,537	77,650	67,638
	人件費計	1,260	2,520	1,320
	正規（人）	0.20	0.40	0.20
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	施設の管理運営を指定 管理者へ委託	施設の管理運営を指定 管理者へ委託	施設の管理運営を指定 管理者へ委託
	施設の適正な維持管理 を実施	施設の適正な維持管理 を実施	施設の適正な維持管理 を実施

事務事業評価シート（2 / 2）

4 頁
令和 3 年 8 月 20 日
13 時 00 分 03 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005751010 生涯学習施設管理係
事務事業 02484 市民会館施設管理事業
【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
会議室利用率	%	50.00 48.83	50.00 42.60	50.00 0.00
サルビアホール利用率	%	50.00 54.66	50.00 34.21	50.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	3
理由	ホールや会議室の貸館は他でも行っています。		
2	必要性	市民ニーズの有無	1
理由	発表会、講演会、会議室での利用などは多くあります。		
3	有効性	目標に対する進捗状況	2
理由	コロナ禍の影響により目標を下回っています。		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	2
理由	指定管理制度を導入しており、効率的な事務運営をしています。		
5	公平性	事業規模・サービス水準	1
理由	民間の企業力やノウハウを生かし、水準を保っています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	平成27年度から指定管理制度を採用し、平成30年度から5年間の新たな指定管理制度が始まっています。利用率の低下にならないように指定管理者との連絡を密にし、事業の内容の確認、助言や指示を行っています。また、利用者が快適に施設を利用できるよう適切な維持補修等を実施するとともに、利用者サービス向上に向けて継続的に指定管理者の管理運営の監視及び指導を行っています。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005751010 生涯学習課施設管理係
事務事業 02485 天文普及事業

所属長名 原田 敬章
担当者 永瀬 真理
電話番号 0566-76-1515

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4 生涯学習			
施策の方針	002	多様なニーズに応じた学びの機会の提供			
事務事業	010	天文普及事業			
事業期間	昭和56年度 ～				
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等					
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を統合しています。 ・天文普及事業 ・プラネタリウム放映事業				

【事業分析】

対象	市民が
目的	天文の基礎知識を気軽に学ぶことができ、更に興味、関心を深めることができるようにすることを目的としています。
手段	幅広い年齢層を対象にした一般放映では広く天文普及を目指した番組を放映し、幼児や小中学生を対象にした団体放映では未来を担う子どもたちに宇宙に関する興味を抱かせるとともに、学校の授業の理解向上に繋がる番組を放映します。
事務内容	プラネタリウムの放映と番組更新及び天文普及に関する事務

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		36,078	33,969	46,666
事業費		33,558	31,449	43,366
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	2,620	20,209	23,830
	一般財源	30,938	11,240	19,536
人件費計		2,520	2,520	3,300
	正規（人）	0.40	0.40	0.50
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	一般放映の実施 （幅広い年齢層が観覧できる番組） 団体放映の実施 （保育園、幼稚園、小中学校等観覧者の年齢に合わせた番組） 特別放映の実施 天体観望会の実施	一般放映の実施 （幅広い年齢層が観覧できる番組） 団体放映の実施 （保育園、幼稚園、小中学校等観覧者の年齢に合わせた番組） 特別放映の実施 天体観望会の実施	一般放映の実施 （幅広い年齢層が観覧できる番組） 団体放映の実施 （保育園、幼稚園、小中学校等観覧者の年齢に合わせた番組） 特別放映の実施 天体観望会の実施

事務事業評価シート（2 / 2）

6 頁
令和 3 年 8 月 20 日
13 時 00 分 03 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005751010 生涯学習施設管理係
事務事業 02485 天文普及事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
一般投映及び団体投映 観覧者数	人	17,000.00 26,693.00	17,000.00 9,842.00	17,000.00 0.00

【定性評価】						
カテゴリ		評価の観点		基準		ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1	国・県・民間等がサービスを行っていない		3
	2		国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある			
	3		国・県・民間等が同様のサービスを行っている			
理由		プラネタリウムの投映は他でも多く行っています。				
2	必要性	市民ニーズの有無	1	市民ニーズは充分にある		1
	2		社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している			
	3		市民ニーズはない又は不明である			
理由		天文を楽しめる場、知識を得る場としてニーズはあります。				
3	有効性	目標に対する進捗状況	1	目標を上回る又は目標どおりの進捗である		2
	2		目標を下回る進捗状況である			
	3		進捗はかなり遅れている			
理由		コロナ過の影響により、目標を下回っています。				
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている		2
	2		事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる			
	3		事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない			
理由		専門知識を必要とする事業として委託化し効率を図っています。				
5	公平性	事業規模・サービス水準	1	環境変化や他自治体等と比較して適正である。		1
	2		環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。			
	3		環境変化や他自治体等と比較して適正でない。			
理由		近隣市と比較しても水準は保たれています。				

【1次評価結果】	
事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	市民が天文に対して興味を持ち、学ぶことができるプラネタリウムとして、魅力ある投映を実施しています。また、天文に関する興味、関心、想いを啓発し、天文の基礎知識及び天文普及事業に対する探究心や知識を高めるため、特別投映、天文観覧会などを実施し、天文普及に冠する事業を据えています。

【2次評価結果】	
事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

7 頁
令和 3年 8月20日
13時00分03秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005751010 生涯学習課施設管理係
事務事業 02486 安祥閣施設管理事業

所属長名 原田 敬章
担当者 安藤 冨香
電話番号 0566-76-1515

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4 生涯学習			
施策の方針	004	市民の主体的な学びを支える環境づくり			
事務事業	004	安祥閣施設管理事業			
事業期間	昭和54年度 ～				
実施方法	全部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	安祥閣の設置及び管理に関する条例				
備考					

【事業分析】

対象	安祥閣の利用者が
目的	快適に施設を利用できるようにすることを目的としています。
手段	安祥閣の管理運営を指定管理者へ委託し、施設の適正な維持管理を実施します。
事務内容	指定管理に関する事務、施設の維持管理に関する事務

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		7,940	8,648	8,955
事業費	事業費	6,680	7,388	7,635
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	6,680	7,388	7,635
	人件費計	1,260	1,260	1,320
	正規（人）	0.20	0.20	0.20
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	施設の管理運営を指定 管理者へ委託	施設の管理運営を指定 管理者へ委託	施設の管理運営を指定 管理者へ委託
	施設の適正な維持管理 を実施	施設の適正な維持管理 を実施	施設の適正な維持管理 を実施

事務事業評価シート（2/2）

8 頁
令和 3年 8月20日
13時00分03秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005751010 生涯学習施設管理係
事務事業 02486 安祥閣施設管理事業
【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
部屋利用率（利用部屋数÷利用可能部屋数）	%	28.90 25.46	28.90 16.06	28.90 0.00

【定性評価】

カテゴリ		評価の観点		基準		ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1	国・県・民間等がサービスを行っていない		3
			2	国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある		
			3	国・県・民間等が同様のサービスを行っている		
	理由	部屋の貸館は他でも多く行っています。				
2	必要性	市民ニーズの有無	1	市民ニーズは充分にある		2
			2	社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している		
			3	市民ニーズはない又は不明である		
	理由	和室のみとなっているため、利用が限定されます。				
3	有効性	目標に対する進捗状況	1	目標を上回る又は目標どおりの進捗である		2
			2	目標を下回る進捗状況である		
			3	進捗はかなり遅れている		
	理由	コロナ禍の影響により、目標より下回っています。				
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている		2
			2	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる		
			3	事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない		
	理由	指定管理制度を導入しており、効率的な事業運営をしています。				
5	公平性	事業規模・サービス水準	1	環境変化や他自治体等と比較して適正である。		1
			2	環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。		
			3	環境変化や他自治体等と比較して適正でない。		
	理由	民間の企業力やノウハウを生かして、水準を保っています。				

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	平成18年度より指定管理制度を採用しています。和室限定の部屋使用ということもあり、お茶会などで利用していただいているものの、利用率は伸び悩んでいるのが現状です。また、施設施工より40年が経過し老朽化する中で、総合的な視野の中で、施設の存続、廃止のあり方を検討する必要があります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価

所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係

事務事業 02487 生涯学習計画推進事業

所属長名 原田 敬章

担当者 天野 信治

電話番号 0566-76-1515

【基本情報】

計画次数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1.4生涯学習			
施策の方針	004	市民の主体的な学びを支える環境づくり			
事務事業	003	生涯学習計画推進事業			
事業期間	平成17年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	社会教育法第5条第1項第2号、第13条、第15条～第18条				
備考					

【事業分析】

対象	生涯学習推進計画が
目的	計画どおりに進捗します。
手段	平成28年3月に第3次安城市生涯学習推進計画を策定し、計画の進行管理・評価を定期的実施する場として、社会教育審議会に毎年度計画の推進状況を報告し、意見・提言を得る機会を設けます。また、第4次生涯学習推進計画を策定します。
事務内容	生涯学習推進計画の施策・事業の進捗管理、関係部局の関連事業の調査 社会教育審議会の開催、社会教育委員の各種研修会・大会等への参加等 市民アンケートの実施、第4次生涯学習計画策定委員会の開催

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		7,554	9,601	3,838
事業費	事業費	2,829	4,246	538
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	120	120	0
	一般財源	2,709	4,126	538
	人件費計	4,725	5,355	3,300
	正規（人）	0.75	0.85	0.50
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	社会教育審議会において、第3次生涯学習推進計画の進捗状況報告	社会教育審議会において、第3次生涯学習推進計画の進捗状況報告	社会教育審議会において、第3次生涯学習推進計画の結果報告
	社会教育委員の各種研修会・大会等への参加	社会教育委員の各種研修会・大会等への参加	社会教育委員の各種研修会・大会等への参加
	第4次生涯学習推進計画策定委員会の開催	第4次生涯学習推進計画策定委員会、作業部会等の開催	

事務事業評価シート（2 / 2）

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係
事務事業 02487 生涯学習計画推進事業
【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
生涯学習講座・教室の受講者数	人	13,900.00 12,982.00	14,500.00 2,297.00	6,500.00 0.00

【定性評価】

	カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
			2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
			3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市の計画であり、他の事業主体が行うものではありません。			
2	必要性	市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
			2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
			3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	計画を推進することで、市民の生涯学習の推進に繋がります。			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
			2 目標を下回る進捗状況である	
			3 進捗はかなり遅れている	
理由	コロナ禍の影響により、目標値を下回っています。			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
			2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
			3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	社会教育委員の方々に研修会等に参加していただいています。			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
			2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
			3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	委員報酬は市の基準とおりです。			

【1 次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (400 文字)	社会教育法に定められた社会教育委員は、市の社会教育に対して助言をいただける重要な役割があり、社会教育委員の方々に県の社会教育連絡協議会の研修会等に参加いただき、多様な生涯学習施策の情報や他市の生涯学習活動について情報交換いただき、本市の今後の生涯学習の推進に引き続きご意見、ご提言をいただくことが必要です。

【2 次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (400 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係
事務事業 02489 生涯学習市民参画推進事業

所属長名 原田 敬章
担当者 石川 久美
電話番号 0566-76-1515

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4 生涯学習			
施策の方針	003	学びの成果を地域に生かすつながりづくり			
事務事業	004	生涯学習市民参画推進事業			
事業期間	平成13年度 ～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト	○	地方創生	
根拠法令等	社会教育法第 5 条第 1 項第 6 号、公民館の設置及び運営に関する基準第 3 条第 1 項				
備考					

【事業分析】

対象	生涯学習に意欲のある市民団体が
目的	市と協働することにより、活発に活動できるようになります。
手段	市民団体が企画運営する講座を募集し、市と協働で市民企画講座を開催します。 自主グループが自ら主催する初心者向けの自主グループ主催講座を開催します。
事務内容	講座の募集、開講講座の審査・決定、講座開催の周知・PR、講座の開催等

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト		3,406	2,987	4,381
事業費	事業費	886	467	1,741
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	41	31	75
	一般財源	845	436	1,666
	人件費計	2,520	2,520	2,640
	正規（人）	0.40	0.40	0.40
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	市民企画講座を開催	市民企画講座を開催	市民企画講座を開催
	自主グループ主催講座 を開催	自主グループ主催講座 を開催	自主グループ主催講座 を開催
	市民企画講座・自主グ ループ主催講座を生 涯学習情報誌で周知	市民企画講座・自主グ ループ主催講座を生 涯学習情報誌で周知	市民企画講座・自主グ ループ主催講座を生 涯学習情報誌で周知

事務事業評価シート（2 / 2）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係
事務事業 02489 生涯学習市民参画推進事業
【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
1年間に新たに活動を始めた自主グループ数	グループ	19.00 25.00	19.00 24.00	15.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ		評価の観点	基準		ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1	国・県・民間等がサービスを行っていない	1
			2	国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
			3	国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
	理由	市民団体の事業で、他の事業主体が行うものではありません。			
2	必要性	市民ニーズの有無	1	市民ニーズは充分にある	1
			2	社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
			3	市民ニーズはない又は不明である	
	理由	多くの団体、自主グループが活動しています。			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1	目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
			2	目標を下回る進捗状況である	
			3	進捗はかなり遅れている	
	理由	目標値以上の自主グループが新たに活動を開始しています。			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
			2	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
			3	事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
	理由	講座の企画、運営は市民団体が実施しています。			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1	環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
			2	環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
			3	環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
	理由	団体が、時代や環境に即した講座を実施しています。			

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	多様化する学習ニーズや社会的ニーズに柔軟に対応するため、市民自らが企画・運営し、市民同士で楽しみながら、学び、教える生涯学習活動を目指すための重要な事業として本事業を実施していくことが必要です。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価

所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係

事務事業 02490 家庭教育・子育て支援事業

所属長名 原田 敬章

担当者 西部 有美香

電話番号 0566-76-1515

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4 生涯学習			
施策の方針	002	多様なニーズに応じた学びの機会の提供			
事務事業	009	家庭教育・子育て支援事業			
事業期間	平成17年度～				
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	社会教育法第 5 条第 1 項第 7 号、公民館の設置及び運営に関する基準第 4 条				
備考					

【事業分析】

対象	子育て中の親が
目的	子育てに関する講座の受講や、親どうしの交流の機会を多く得ることができるようにします。
手段	よりよい家庭教育の推進、社会教育の観点から子育ての支援を図るため、家庭教育講演会や子育て・親育ち広場を開催します。
事務内容	家庭教育講演会における講師の選定・委託、開催 子育て・親育ち広場の運営委託等

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		5,693	5,007	6,171
事業費	事業費	1,283	597	1,551
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	1,283	597	1,551
	人件費計	4,410	4,410	4,620
	正規（人）	0.70	0.70	0.70
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	家庭教育講演会の開催	家庭教育講演会の開催 →中止	家庭教育講演会の開催
	ほのぼの広場、ほのぼのクラブの開催	ほのぼの広場、ほのぼのクラブの開催	ほのぼの広場、ほのぼのクラブの開催
	安城市小中学校 P T A 連絡協議会の活動を支援するため補助金を交付	安城市小中学校 P T A 連絡協議会の活動を支援するため補助金を交付→補助金対象事業が中止	安城市小中学校 P T A 連絡協議会の活動を支援するため補助金を交付

事務事業評価シート（2 / 2）

6 頁

令和 3年 8月18日
14時52分35秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係
事務事業 02490 家庭教育・子育て支援事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
ほのぼの広場への参加人数	人	450.00 1,202.00	450.00 534.00	450.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ		評価の観点	基準		ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1	国・県・民間等がサービスを行っていない	1
			2	国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
			3	国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由		地域の母親対象の事業で、他の事業主体が行うものではありません			
2	必要性	市民ニーズの有無	1	市民ニーズは充分にある	1
			2	社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
			3	市民ニーズはない又は不明である	
理由		毎年、多くの市民に参加いただいています。			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1	目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
			2	目標を下回る進捗状況である	
			3	進捗はかなり遅れている	
理由		目標値を上回る市民に参加をいただいています。			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
			2	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
			3	事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由		NPO法人に事業運営をお願いしています。			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1	環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
			2	環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
			3	環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由		他市においても様々な家庭教育事業が実施されています。			

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	社会全体が家庭における子育てや教育を応援し支えていく必要が求められ、地域において親の学びを支援する継続的な取り組みを行っていく必要があります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2 次評価

所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係

事務事業 02491 生涯学習情報提供事業

所属長名 原田 敬章

担当者 西部 有美香

電話番号 0566-76-1515

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4生涯学習			
施策の方針	004	市民の主体的な学びを支える環境づくり			
事務事業	002	生涯学習情報提供事業			
事業期間	平成元年度 ～				
実施方法	全部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	社会教育法第 5 条第 1 項第 1 6 号、公民館の設置及び運営に関する基準第 3 条第 2 項				
備考					

【事業分析】

対象	市民が
目的	生涯学習情報を容易に得ることができます。
手段	市の生涯学習情報を掲載した情報誌「あんでな」を発行します。情報誌概要版は市内全戸配布、製本版は市内公共施設で希望者に配布し、生涯学習情報を市民に提供します。
事務内容	生涯学習情報の収集、情報誌作成委託業者の選定・委託等

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		11,224	9,661	10,290
事業費	事業費	7,129	5,566	6,000
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	798	0	0
	一般財源	6,331	5,566	6,000
	人件費計	4,095	4,095	4,290
	正規（人）	0.65	0.65	0.65
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	生涯学習情報誌「あんでな」発行 年 4 回	生涯学習情報誌「あんでな」発行 年 4 回	生涯学習情報誌「あんでな」発行 年 4 回
	有料広告掲載		

事務事業評価シート（2 / 2）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係
事務事業 02491 生涯学習情報提供事業
【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
生涯学習情報誌の発行回数	回	4.00 4.00	4.00 4.00	4.00 0.00

【定性評価】

	カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
			2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
			3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市の情報提供であり、他の事業主体が行うものではありません。			
2	必要性	市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
			2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
			3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	市民が生涯学習の情報を得る手段として利用されています。			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
			2 目標を下回る進捗状況である	
			3 進捗はかなり遅れている	
理由	目標どおりの発行ができています。			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
			2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
			3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	アプリの活用などによる情報提供をしています。			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
			2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
			3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	他の自治体においても様々な方法で情報提供されています。			

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	市民が欲しい情報が、欲しい時に取得できるよう、多様な情報提供を進めるとともに、より分かりやすい、使いやすい情報誌となるようにアプリ活用による情報提供を加えるなど、市民が生涯学習情報を得る重要な手段として継続的に実施していく必要があります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価 所属長名 原田 敬章
所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係 担当者 太田 菜月
事務事業 02493 公民館講座事業 電話番号 0566-76-1515

【基本情報】

計画次数	02	第8次安城市総合計画			
5 Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4生涯学習			
施策の方針	002	多様なニーズに応じた学びの機会の提供			
事務事業	007	公民館講座事業			
事業期間	平成元年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業	ひとづくり	マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	社会教育法第5条第1項第6号、公民館の設置及び運営に関する基準第3条第1項				
備考					

【事業分析】

対象	市民が
目的	多様な学習機会の提供を受けることができます。
手段	趣味・教養・健康づくりなど、一人ひとりの生きがいや充実した個人生活の実現につながる学びの機会を提供し、ライフステージ、学びのレベルに応じた学習機会の提供を進めます。
事務内容	講座の企画、講師の依頼、周知、受講生の募集、開催、謝礼の支払

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		93,264	79,607	97,253
事業費		12,939	5,582	17,063
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	1,103	330	1,083
	一般財源	11,836	5,252	15,980
人件費計		80,325	74,025	80,190
	正規（人）	12.75	11.75	12.15
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	地区公民館10館で公民館講座、家庭教育学級、乳幼児学級、高齢者教室、文化センターでシルバーカレッジ、ものづくり講座等を開催	地区公民館10館で公民館講座、へきしんギャラクシープラザでのものづくり講座等を開催 家庭教育学級、乳幼児学級、高齢者教室、シルバーカレッジは中止	地区公民館10館で公民館講座、家庭教育学級、乳幼児学級、高齢者教室、へきしんギャラクシープラザでシルバーカレッジ、ものづくり講座等を開催

事務事業評価シート（2 / 2）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係
事務事業 02493 公民館講座事業
【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
生涯学習講座・教室の受講者数	人	13,900.00 12,982.00	14,500.00 2,297.00	6,500.00 0.00

【定性評価】

	カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
			2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
			3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	公民館講座であり、他の事業主体が行うものではありません。			
2	必要性	市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
			2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
			3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	講座によっては抽選で受講者を決定しています。			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
			2 目標を下回る進捗状況である	
			3 進捗はかなり遅れている	
理由	コロナ禍の影響により、受講者数が減少しています。			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
			2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
			3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	受講生に講座の準備をしていただくなどしています。			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
			2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
			3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	他の自治体でも同様に公民館が講座をしています。			

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	社会情勢が刻々と変化しており、生涯学習に求められるテーマもますます多様化する中で、市民一人ひとりの生きがいや充実した個人生活の実現につながる学習機会の充実を図るため、市民ニーズにあった講座・教室を開催していく必要があります。 また、コロナ禍における事業実施方法を検討していく必要があります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1 / 2）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2 次評価

所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係

事務事業 02494 公民館地域ふれあい事業

所属長名 原田 敬章

担当者 神谷 高典

電話番号 0566-76-1515

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4 生涯学習			
施策の方針	002	多様なニーズに応じた学びの機会の提供			
事務事業	006	公民館地域ふれあい事業			
事業期間	昭和55年度 ～				
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	社会教育法第 5 条、第 2 0 条、公民館の設置及び運営に関する基準第 6 条				
備考					

【事業分析】

対象	地域住民や地区公民館の利用団体が
目的	地域における交流を深めるようになります。
手段	地区公民館において、地域住民や利用団体が交流する機会と、学習の成果を発表する機会を提供するため、ふれあい事業や公民館まつり等の事業を実施します。
事務内容	地域代表の住民等と事業内容の検討、事業の住民への P R、事業の実施及び予算の執行

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		97,073	80,481	94,262
事業費	事業費	8,873	2,361	11,102
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	8,873	2,361	11,102
	人件費計	88,200	78,120	83,160
	正規（人）	14.00	12.40	12.60
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	地区公民館10館で公民館まつりを開催	地区公民館10館で公民館まつりを開催→中止	地区公民館10館で公民館まつりを開催
	地区公民館で子どもまつり、芸能まつり、どろんこまつり、ウォーキング大会等の開催	地区公民館でふれあい展示会等の開催	地区公民館で子どもまつり、芸能まつり、どろんこまつり、ウォーキング大会等の開催

事務事業評価シート（2 / 2）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係
事務事業 02494 公民館地域ふれあい事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
公民館まつり等のふれあい事業参加者数		40,000.00 38,219.00	40,000.00 2,002.00	20,000.00 0.00

【定性評価】

	カテゴリ	評価の観点	基準		ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1	国・県・民間等がサービスを行っていない	1
			2	国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
			3	国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由		公民館の地区が対象であり、他の事業者が行うものではありません			
2	必要性	市民ニーズの有無	1	市民ニーズは充分にある	1
			2	社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
			3	市民ニーズはない又は不明である	
理由		毎年多くの方に参加いただいています。			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1	目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
			2	目標を下回る進捗状況である	
			3	進捗はかなり遅れている	
理由		コロナ禍の影響により、事業を中止したため、減少しています。			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
			2	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
			3	事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由		自主グループやボランティアの方に協力をいただいています。			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1	環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
			2	環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
			3	環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由		他の施設においても同様の事業が実施されています。			

【1次評価結果】	
事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	地区公民館において、幅広い世代の地域住民の交流を広げるために、各地域、公民館において地域住民のニーズにあった特色を出した事業を展開していく必要があります。

【2次評価結果】	
事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1 / 2）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係
事務事業 02498 講座等参加支援事業

所属長名 原田 敬章
担当者 太田 菜月
電話番号 0566-76-1515

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4 生涯学習			
施策の方針	002	多様なニーズに応じた学びの機会の提供			
事務事業	002	講座等参加支援事業			
事業期間	平成元年度 ～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	義務的／政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	社会教育法第 5 条第 1 項第 6 号、公民館の設置及び運営に関する基準第 3 条第 1 項				
備考					

【事業分析】

対象	子育て世代や障がい者が
目的	希望する講座を受講しやすい環境を作ります。
手段	子育て世代への講座参加支援として、託児付きの講座を開催します。また、障がい者への参加支援として、手話通訳者や要約筆記者を設置した講演会等を開催します。
事務内容	託児者、手話通訳者、要約筆記者の手配、報償費の支払、託児世話人研修会の開催、託児世話人賠償責任保険の加入

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		6,496	2,699	6,636
事業費	事業費	4,606	1,439	5,316
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	79	0	90
	一般財源	4,527	1,439	5,226
	人件費計	1,890	1,260	1,320
	正規（人）	0.30	0.20	0.20
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	託児付講座の開催	託児付講座の開催→中止	託児付講座の開催
	手話通訳者・要約筆記者をつけた講座等の開催	手話通訳者・要約筆記者をつけた講座等の開催→中止	手話通訳者・要約筆記者をつけた講座等の開催

事務事業評価シート（2 / 2）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005751020 生涯学習課生涯学習係
事務事業 02498 講座等参加支援事業
【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
参加支援をした講座数	講座	35.00 34.00	35.00 0.00	35.00 0.00

【定性評価】

	カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
			2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
			3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市事業での託児、手話通訳者派遣で他で行うものではありません。			
2	必要性	市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
			2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
			3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	昨年度は中止しましたが、これまでに利用いただいています。			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
			2 目標を下回る進捗状況である	
			3 進捗はかなり遅れている	
理由	コロナ禍の影響により、昨年度は事業を中止しました。			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
			2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
			3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	NPO法人、市民団体等に託児世話人をお願いしています。			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
			2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
			3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	他の自治体でも、託児や手話通訳者の設置を行っています。			

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	女性活躍推進法、障害者差別解消法が制定・施行され、育児に携わる女性の社会参加を促すため、生涯学習の機会を提供することが重要であり、子育て世代の生涯学習を推進していくため、市民や市民団体の協力を得ながら、託児付きの公民館講座を継続的に開催していく必要があります。また、障がい者に対しても手話通訳者や要約筆記者を設置した講演会等の開催など障がい者に対する差別解消の施策が必要となる中で、今後も本事業に取り組んでいく必要があります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価

所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係

事務事業 02499 青少年の家管理運営事務

所属長名 原田 敬章

担当者 畑中 良成

電話番号 0566-76-3432

【基本情報】

計画次数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	004	14生涯学習			
施策の方針	004	市民の主体的な学びを支える環境づくり			
事務事業	001	青少年の家管理運営事務			
事業期間	昭和58年度～				
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	安城市青少年の家の設置及び管理に関する条例				
備考					

【事業分析】

対象	青少年の家利用者が
目的	施設を快適に利用することができます。
手段	青少年が研修等の活動を行うため施設内の部屋を貸し出し、活動をする場所を提供します。
事務内容	利用申請書の受付、施設管理事務等

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		19,292	19,725	21,012
事業費	事業費	16,772	17,835	19,032
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	2,503	1,890	2,208
	一般財源	14,269	15,945	16,824
	人件費計	2,520	1,890	1,980
	正規（人）	0.40	0.30	0.30
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	青少年の家利用回数	青少年の家利用回数	青少年の家利用回数
	3,808回	2,759回	3,800回
	利用人数	利用人数	利用人数
	55,510人	24,978人	55,000人

事務事業評価シート（2 / 2）

2 頁
令和 3年 8月20日
13時02分16秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係
事務事業 02499 青少年の家管理運営事務

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
青少年の家利用登録団体数青少年団体	団体	70.00 97.00	90.00 83.00	80.00 0.00
青少年の家利用登録団体数一般団体	団体	80.00 85.00	85.00 78.00	75.00 0.00

【定性評価】

	カテゴリ	評価の観点	基準		ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1	国・県・民間等がサービスを行っていない	1
			2	国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
			3	国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
	理由	青少年の健全な育成を目的とした施設は市内には他にありません。			
2	必要性	市民ニーズの有無	1	市民ニーズは充分にある	1
			2	社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
			3	市民ニーズはない又は不明である	
	理由	青少年団体等が活動する施設として必要とされています。			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1	目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
			2	目標を下回る進捗状況である	
			3	進捗はかなり遅れている	
	理由	休館等利用制限したため、目標を下回る結果となりました。			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
			2	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
			3	事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
	理由	利用の促進につながる取り組みを行いました。			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1	環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
			2	環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
			3	環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
	理由	利用団体が必要とするサービス水準となっています。			

【1次評価結果】	
事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	青少年の健全な育成を目的とした施設であり、青少年団体の活動の場として多くの団体が登録し施設を利用しています。また、青少年団体以外の一般団体からも利用されています。 コロナ禍の影響により休館を含む利用制限をする期間があり、登録団体数、利用回数及び利用人数は減少しています。引き続き多数の団体に定期的に継続して利用してもらい稼働率を伸ばす工夫が必要です。

【2次評価結果】	
事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度令和 2 年度進捗区分2 次評価

所属0005752110 生涯学習課青少年の家指導係

事務事業02500 少年団体支援事業

所属長名原田 敬章

担当者岡田 有峰

電話番号0566-76-3432

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4 生涯学習			
施策の方針	003	学びの成果を地域に生かすつながりづくり			
事務事業	003	少年団体支援事業			
事業期間	昭和59年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等					
備考					

【事業分析】

対象	小学生が
目的	活動を通して健全育成が図られます。
手段	活動する団体等（スカウト、子ども会）に対して補助を行うことで健全育成活動の円滑化を図ります。
事務内容	安城市スカウト連絡協議会、安城市子ども会育成連絡協議会、又は同協議会における各学区育成会の計画・補助金の申請、事業実施、事業報告、補助金の交付。

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		12,047	9,621	11,782
事業費	事業費	8,267	5,841	7,822
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	8,267	5,841	7,822
	人件費計	3,780	3,780	3,960
	正規（人）	0.60	0.60	0.60
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
【事務事業活動実績】	安城市子ども会加入者数 6, 4 2 5 人 ボーイスカウト・ガールスカウト加入者数 3 3 6 人	安城市子ども会加入者数 5, 8 9 9 人 ボーイスカウト・ガールスカウト加入者数 3 4 8 人	安城市子ども会加入者数 5, 3 0 0 人 ボーイスカウト・ガールスカウト加入者数 3 3 0 人

事務事業評価シート（2 / 2）

4 頁
令和 3 年 8 月 20 日
13 時 02 分 17 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係
事務事業 02500 少年団体支援事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
子ども会加入者数	人	6,400.00 6,425.00	5,800.00 5,899.00	5,300.00 0.00
スカウト加入者数	人	350.00 336.00	330.00 348.00	330.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ		評価の観点		基準		ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1	国・県・民間等がサービスを行っていない		2
	2		国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある			
	3		国・県・民間等が同様のサービスを行っている			
理由		地域で活動する団体の支援であり、他機関は実施していません。				
2	必要性	市民ニーズの有無	1	市民ニーズは充分にある		1
	2		社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している			
	3		市民ニーズはない又は不明である			
理由		各少年団体から市の支援を必要とされています。				
3	有効性	目標に対する進捗状況	1	目標を上回る又は目標どおりの進捗である		2
	2		目標を下回る進捗状況である			
	3		進捗はかなり遅れている			
理由		団体加入者は減少しています。				
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている		2
	2		事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる			
	3		事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない			
理由		子ども会役員の負担軽減のため活動内容の見直しをしています。				
5	公平性	事業規模・サービス水準	1	環境変化や他自治体等と比較して適正である。		1
	2		環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。			
	3		環境変化や他自治体等と比較して適正でない。			
理由		他自治体も同様の事業を実施しています。				

【1次評価結果】	
事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	子ども会における地域での活動やスカウトによる奉仕活動を通して子どもたちの健全育成を図っていきます。加入者数が減少傾向にあるため、各団体の活動の魅力を発信するとともに、役員や指導者の負担が軽減できるよう検討します。

【2次評価結果】	
事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係
事務事業 02501 青年講座事業

所属長名 原田 敬章
担当者 橋本 美香子
電話番号 0566-76-3432

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4 生涯学習			
施策の方針	002	多様なニーズに応じた学びの機会の提供			
事務事業	001	青年講座事業			
事業期間	昭和27年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	結婚・出産・子育て
根拠法令等					
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を統合しています。 ・ユースカレッジ事業 ・ヤングセミナー事業				

【事業分析】

対象	講座に参加する青年が
目的	余暇を有効に活用して、生涯学習を行う又は深める機会を提供します。
手段	様々な分野で、青年自身の生涯学習となる講座を年間を通じて開催します。
事務内容	講座の企画・立案、開催。講師の選定。受講者の募集。

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		3,577	3,881	5,596
事業費		1,057	416	1,636
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	893	17	42
	一般財源	164	399	1,594
人件費計		2,520	3,465	3,960
	正規（人）	0.40	0.55	0.60
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
【事務事業活動実績】	青年講座数 3 講座 ユースカレッジ講座回数 3 9 回	青年講座数 3 講座 ユースカレッジ講座回数 1 2 回	青年講座数 8 講座 ユースカレッジ講座回数 3 4 回

事務事業評価シート（2 / 2）

6 頁
令和 3年 8月20日
13時02分17秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係
事務事業 02501 青年講座事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
ヤングセミナー（青年講座）参加者数	人	60.00 37.00	60.00 20.00	50.00 0.00
ユースカレッジ修了者数	人	18.00 15.00	15.00 10.00	15.00 0.00

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	2
理由	青年の育成を目的とした事業のため市が実施します。		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	2
理由	参加希望者は減少傾向にあります。		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	2
理由	コロナ禍により講座数が少なく、参加者は目標を下回りました。		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
理由	講座内容と市民への周知の見直しを実施しています。		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	2
理由	ユースカレッジは同種の事業を実施する自治体が減少しています。		

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	青年に余暇を活用した学びの場を提供することで、教養や経験を高めるとともに地域や職場でのリーダーとして成長してもらうために必要な事業であり、今後も継続していきます。ただし、ユースカレッジ、青年講座ともに参加者が減少しているため、講座内容の見直しや事業実施に関する周知方法を検討し、多くの青年が参加する魅力のある事業にしていする必要があります。

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係
事務事業 02502 成人の日記念事業

所属長名 原田 敬章
担当者 岡田 有峰
電話番号 0566-76-3432

【基本情報】

計画次数	02	第8次安城市総合計画			
5 Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4生涯学習			
施策の方針	001	1 4生涯学習その他			
事務事業	002	成人の日記念事業			
事業期間	平成元年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等					
備考					

【事業分析】

対象	新成人が
目的	成人としての自覚と責任を持ち、また祝福と激励を受けるために成人の日記念式典に参加します。
手段	新成人を激励し祝福する記念式典とアトラクションを開催します。
事務内容	成人式の開催 ・実行委員会の開催 ・会場設営、警備などの委託 ・記念冊子作成 ・新成人、来賓等への案内

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		8,064	9,267	10,716
事業費		5,544	5,487	6,756
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	5,544	5,487	6,756
人件費計		2,520	3,780	3,960
	正規（人）	0.40	0.60	0.60
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	成人者の式典参加者数 1, 7 0 2人 （東祥アリーナ安城に て開催）	成人者の式典参加者数 第1部 7 9 7人 第2部 7 7 0人 合計 1, 5 6 7人 （東祥アリーナ安城に て開催）	成人者の式典参加者数 第1部 8 0 0人 第2部 8 0 0人 合計 1, 6 0 0人 （東祥アリーナ安城に て開催）

事務事業評価シート（2 / 2）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係
事務事業 02502 成人の日記念事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
式典の参加者率	%	75.00 75.50	77.00 68.80	69.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	1
2	理由	市内の全新成人を対象とした式典で、他機関では実施していません	
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
3	理由	新成人のうち7割程度の参加者があります。	
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	2
4	理由	コロナ禍の影響により目標を下回る参加者でした。	
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
5	理由	新成人が企画及び運営を行い、人件費を削減しています。	
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
	理由	他の自治体も同様の事業を実施しています。	

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	成人したことを自覚してもらい、またそれを激励し祝福する場として必要であることから、今後も継続して事業を実施します。今後も成人式にふさわしい内容やより多くの新成人が参加できる式となるよう、内容を充実させる必要があります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2 次評価

所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係

事務事業 02503 青少年指導者養成事業

所属長名 原田 敬章

担当者 橋本 美香子

電話番号 0566-76-3432

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4 生涯学習			
施策の方針	003	学びの成果を地域に生かすつながりづくり			
事務事業	002	青少年指導者養成事業			
事業期間	昭和28年度 ～				
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等					
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から次に掲げる事業を統合しています。 ・ 青年指導者養成事業 ・ ジュニアリーダー・年少リーダー育成事業 ・ 市民盆踊りの集い開催事業 平成 2 9 年度の公開行政レビューの結果、平成 3 0 年度から市民盆踊りの集い開催事業を廃止します。				

【事業分析】

対象	青少年が
目的	生涯学習の機会を得て、社会活動への参加・交流及び地域のリーダーとしての資質を得ます。
手段	青少年が行事を企画・実施する能力を養うため、研修会に参加したり企画したものを実施します。
事務内容	研修会開催通知発送、行事企画運営の指導、指導者の育成。

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト	事業費	2,699	938	1,108
	国庫支出金	809	308	448
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	809	308	448
	人件費計	1,890	630	660
	正規（人）	0.30	0.10	0.10
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	ジュニアリーダー研修会、市子連行事及び市主催行事参加回数 1 2 回 青年企画委員会によるイベント開催	ジュニアリーダー研修会、市子連行事及び市主催行事参加回数 3 回	ジュニアリーダー研修会、市子連行事及び市主催行事参加回数 1 2 回 青年企画委員会によるイベント開催

事務事業評価シート（2 / 2）

10 頁
令和 3年 8月20日
13時02分17秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係
事務事業 02503 青少年指導者養成事業
【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
ジュニアリーダークラブ会員数	人	15.00 15.00	15.00 10.00	15.00 0.00
企画実行メンバー（養成対象）人数	人	5.00 6.00	5.00 0.00	5.00 0.00

【定性評価】

評価項目		カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性		国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
	2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある				
	3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている				
理由		地域におけるリーダーの養成で、他機関では実施していません。			
2	必要性		市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
	2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している				
	3 市民ニーズはない又は不明である				
理由		子ども会からジュニアリーダーの派遣要請があります。			
3	有効性		目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
	2 目標を下回る進捗状況である				
	3 進捗はかなり遅れている				
理由		コロナ禍により青年企画委員会が実施できませんでした。			
4	効率性		事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
	2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる				
	3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない				
理由		青少年が主体となった事業となるよう取り組んでいます。			
5	公平性		事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
	2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。				
	3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。				
理由		3年前に事業規模を縮小し適正なサービスを提供しています。			

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	青少年が地域におけるリーダーとなるために必要な知識や技術、企画力を習得し、地域社会で活躍できる人材となることを目的として実施しており、今後も事業を継続する必要があります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

11 頁
令和 3 年 8 月 20 日
13 時 02 分 17 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係
事務事業 02504 青少年健全育成事業

所属長名 原田 敬章
担当者 畑中 良成
電話番号 0566-76-3432

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	005	こども			
項目（施策）	002	1 8 学校教育			
施策の方針	003	豊かな心やたくましい体の育成と健康教育の推進			
事務事業	010	青少年健全育成事業			
事業期間	昭和 57 年度 ～				
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	安城市青少年愛護センターの設置及び管理に関する条例				
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を統合しています。 ・ 青少年健全育成会等活動推進事業 ・ 青少年街頭指導事業 ・ こども 110 番の家設置事業 ・ 地域のおじさん・おばさん運動推進事業 平成 3 0 年度をもって、地域のおじさん・おばさん運動を廃止し、青少年街頭指導を休止しました。 平成 3 1 年度より事務事業名を以下のとおり変更しています。 （旧称）青少年愛護センター事業 （改名）青少年健全育成事業				

【事業分析】

対象	青少年を
目的	地域で見守ることで有害環境から守り、家庭の外での安全性を確保し、青少年の健全育成に資するものです。
手段	青少年に対しての声かけ、こども 1 1 0 番の家ののぼり旗設置による犯罪抑止、各小中高等学校の青少年健全育成会等に活動を委託しています。
事務内容	青少年健全育成の推進。各小中高等学校の青少年健全育成会等との委託契約、活動内容の把握及び指導。こども 1 1 0 番の家加入状況の管理とのぼり旗の配布。困難を抱える若者に対する支援。

【コスト】

（単位：千円）

		平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		10,265	9,888	11,511
事業費		6,485	6,108	7,551
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	76	89	52
	一般財源	6,409	6,019	7,499
人件費計		3,780	3,780	3,960
	正規（人）	0.60	0.60	0.60
その他経費		0	0	0

	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
【事務事業活動実績】	健全育成会数 3 6 健全育成協議会数 9 こども 1 1 0 番の家の のぼり旗配布 のぼり旗設置状況調査 （全件） 若者相談回数 1 7 2 回 親の学習会 5 回	健全育成会数 3 6 健全育成協議会数 9 こども 1 1 0 番の家の のぼり旗配布 のぼり旗設置状況調査 （全件） 若者相談回数 2 0 2 回 親の学習会 5 回	健全育成会数 3 6 健全育成協議会数 9 こども 1 1 0 番の家の のぼり旗配布 のぼり旗設置状況調査 （全件） 若者相談回数 2 0 0 回 親の学習会 6 回

事務事業評価シート（２／２）

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係
事務事業 02504 青少年健全育成事業
【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
こども 1 1 0 番の家設置数	箇所	1,300.00 1,218.00	1,220.00 1,215.00	1,220.00 0.00
困難を抱える若者相談者数	人	40.00 51.00	50.00 80.00	80.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ		評価の観点	基準		ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1	国・県・民間等がサービスを行っていない	1
			2	国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
			3	国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
	理由	青少年健全育成のための事業であり他機関では実施していません。			
2	必要性	市民ニーズの有無	1	市民ニーズは充分にある	1
			2	社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
			3	市民ニーズはない又は不明である	
	理由	青少年健全育成は社会全体の問題であり必要とされています。			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1	目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
			2	目標を下回る進捗状況である	
			3	進捗はかなり遅れている	
	理由	こども110番の家設置件数が減少しました。			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
			2	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
			3	事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
	理由	困難を抱える若者に幅広く支援ができる取組にしました。			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1	環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
			2	環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
			3	環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
	理由	市民が必要とするサービス水準となっています。			

【1 次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	青少年を健全に育成するため、必要な支援を行う事業です。 青少年を取り巻く環境は変化しており、抱える問題も多様化しています。必要とされる取組や支援を今後も継続して実施していきます。

【2 次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係
事務事業 02506 青少年ボランティア活動支援センター事業

所属長名 原田 敬章
担当者 岡田 有峰
電話番号 0566-76-3432

【基本情報】

計画次数	02	第8次安城市総合計画			
5 Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4生涯学習			
施策の方針	003	学びの成果を地域に生かすつながりづくり			
事務事業	001	青少年ボランティア活動支援センター事業			
事業期間	平成15年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等					
備考					

【事業分析】

対象	青少年団体が
目的	活動においてボランティア講師等を必要とした場合の支援をします。
手段	ボランティア情報の収集・提供、相談などボランティアに関するコーディネートを行う。また、指導者や講師を登録し、青少年活動を支援する人材として活用します。
事務内容	ボランティアの発掘、登録、コーディネート

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		1,539	1,652	1,878
事業費	事業費	909	1,022	1,218
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	2	2	0
	一般財源	907	1,020	1,218
	人件費計	630	630	660
	正規（人）	0.10	0.10	0.10
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	青少年ボランティアの コーディネート件数4 1件	青少年ボランティアの コーディネート件数 3件	青少年ボランティアの コーディネート件数 4 0件

事務事業評価シート（2 / 2）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係
事務事業 02506 青少年ボランティア活動支援センター事業

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
コーディネート件数	件	35.00 41.00	40.00 3.00	40.00 0.00
登録者数	人	50.00 49.00	50.00 49.00	50.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性	国・県・民間等がサービスを行っていない 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	2
理由	ボランティア活動の推進のため、市の関与も必要です。		
2	必要性	市民ニーズの有無 市民ニーズは充分にある 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している 市民ニーズはない又は不明である	1
理由	子ども会をはじめ、青少年団体から派遣要請があります。		
3	有効性	目標に対する進捗状況 目標を上回る又は目標どおりの進捗である 目標を下回る進捗状況である 進捗はかなり遅れている	2
理由	ボランティア派遣の要請が少なく、目標を大きく下回りました。		
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	2
理由	少年団体への派遣のPRや広報での登録者の募集を行いました。		
5	公平性	事業規模・サービス水準 環境変化や他自治体等と比較して適正である。 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	1
理由	他自治体や社協でも同様の事業を実施しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	子ども会をはじめとした青少年団体がボランティアを必要とする機会が多いため、ボランティアをコーディネートする当該事業は今後も継続して実施します。また、ボランティア登録の募集、コーディネートを必要とする団体への呼びかけも引き続き行います。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（１／２）

評価年度令和 2年度進捗区分2 次評価

所属0005752110 生涯学習課青少年の家指導係

事務事業02507 子ども運動広場補助事業

所属長名原田 敬章

担当者畑中 良成

電話番号0566-76-3432

【基本情報】

計画次数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	004	1 4生涯学習			
施策の方針	001	1 4生涯学習その他			
事務事業	001	子ども運動広場補助事業			
事業期間	昭和53年度 ～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等	子ども運動広場設置事業補助金交付要綱				
備考					

【事業分析】

対象	子どもたちが
目的	地元の広場で安全に運動できます。
手段	町内会が設置する子ども運動広場の開設、設備の更新・修繕、管理にかかる費用等を補助金交付要綱に基づき、補助しています。
事務内容	補助金交付要綱に基づき、町内会から申請書受理。その後審査、決定、交付事務。

【コスト】

（単位：千円）

		平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
		決算額	決算額	予算額
トータルコスト		33,718	18,832	19,168
事業費	事業費	32,458	17,887	18,508
	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	32,458	17,887	18,508
	人件費計	1,260	945	660
	正規（人）	0.20	0.15	0.10
その他経費		0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
	2 4箇所の子ども運動 広場に補助	2 4箇所の子ども運動 広場に補助	2 4箇所の子ども運動 広場に補助
【事務事業活動実績】			

事務事業評価シート（2 / 2）

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005752110 生涯学習課青少年の家指導係
事務事業 02507 子ども運動広場補助事業
【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
子どもたちの利用回数	回	3,000.00 2,592.00	3,000.00 1,295.00	2,000.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ		評価の観点		基準		ランク
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1	国・県・民間等がサービスを行っていない		2
	2		国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある			
	3		国・県・民間等が同様のサービスを行っている			
理由		町内会による広場の管理運営に対する補助を実施しています。				
2	必要性	市民ニーズの有無	1	市民ニーズは充分にある		1
	2		社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している			
	3		市民ニーズはない又は不明である			
理由		地域の子どもたちや少年団体が利用します。				
3	有効性	目標に対する進捗状況	1	目標を上回る又は目標どおりの進捗である		2
	2		目標を下回る進捗状況である			
	3		進捗はかなり遅れている			
理由		コロナ禍により少年団体の利用が減少しました。				
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1	事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている		2
	2		事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる			
	3		事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない			
理由		広場の管理状況を把握し適正な補助を実施することができました。				
5	公平性	事業規模・サービス水準	1	環境変化や他自治体等と比較して適正である。		1
	2		環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。			
	3		環境変化や他自治体等と比較して適正でない。			
理由		他事業の水準に合わせた補助となっています。				

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	本事業は、町内会による子ども運動広場の開設や維持管理等にかかる経費の一部を補助する事業であり、地域における子どもたちの体力の向上及びスポーツの振興を図るために必要であることから、今後も事業を継続します。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。